



下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2012. 9. 18

下水道機構の『新技術情報』 第60号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>



いつもご愛読ありがとうございます。おかげさまで、今回でメルマガ配信 60 回目を迎えます。最初の頃は、どんな風だったかなあとバックナンバーを懐かしく読み返していました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。※7月配信分までのバックナンバーを当機構ホームページにて掲載しております。

→ http://www.jiwet.jp/melmaga_backnumber/index.htm

さて、今週も機構メールマガジン『新技術情報』第60号をお届けします。

業務に、Tea Break にどうぞご活用ください。

■□■□トピックス■□■□■

★インフォメーション

・9月13日(木)、「流域におけるリスク管理と水環境マネジメントの最近の動向」をテーマに技術サロンを開催しました

★機構の動き

・今週は、特に予定はありません

★Tea Break

・ベランダだより (ペンネーム：ベランダ園芸愛好者さんからの投稿です)

★【新コーナー♪】まる子のゆいまーる

・今週は、9月4日(火)に避難訓練を実施しました

★国からの情報

・9月13日付、下水道ホットインフォメーション

.....
インフォメーション (最新の話です)
.....

●9月13日(木)、「流域におけるリスク管理と水環境マネジメントの最近の動向」をテーマに技術サロンを開催しました

水環境をめぐるっては、リスク管理への対応や生態系と下水処理との関係など様々な課題があり、下水道事業でどのように対応していくのか、マスタープランである流総計画はどうあるべきなのかなど、国においても学識者からなる検討会を設置して検討を進められています。

このような中、今回のゲストには、国土交通省水管理・国土保全局下水道部の那須流域下水道計画調整官をお迎えし、「流域におけるリスク管理と水環境マネジメントの最近の動向」と

題してご講演いただきました。内容は、下水道に流入する化学物質、病原微生物等に対するリスク管理の最近の動向、今年の8月に設置された水環境マネジメント検討会の趣旨と検討会での論点等でした。特に、新たな環境基準項目として「大腸菌

数」の導入検討が進んでおり、これに対して下水道の放流水質の基準をどのようにしていくのかなど最新の情報をご紹介いただきました。

さて、次回技術サロンは、10月11日木曜日の17:00からの1時間です。ゲストには、東京ガス(株)導管ネットワーク本部防災・供給部課長 猪股 渉様をお迎えして、「ガス事業における防災の視点からの危機管理」と題して、当機構会議室(東京・江戸川橋)において開催します。皆様多数のご参加をお待ちしております!参加申し込みは機構ホームページから。

→ <http://www.jiwet.jp/school/school-07-308.htm>

※7月の技術サロンの川崎市上下水道局 松川下水道計画課長の資料を専用サイト登録者のページに掲載しました。登録者は、これまでのサロンの資料がご覧いただけます。

公共団体等の方はこちら

→ <https://www.jiwet.jp/members/gov/>

出捐団体等の方はこちら

→ <https://www.jiwet.jp/members/support/>

機構の動き (機構の行事予定です)

●下水道機構設立記念日

平成24年9月28日(金) (機構はお休みとなります)

※おかげさまで、設立満20年を迎えます。

Tea Break (機構職員の感じるまま)

●ベランダだより (ペンネーム:ベランダ園芸愛好者さんからの投稿です)

こうも雨が少ないと雨乞いもしたくなりますが、私のようなベランダ園芸愛好者にとってはなおさらです。ベランダ園芸には長い歴史があります。もう就職した子供が幼稚園児のころ、「種から植物は育つんだよ」とベランダの鉢に環境教育のつもりで食べ終わった桃の種を植え、忘れていたころ芽を出したことに始まります。始めは育っただけでしたが数年後突然クリスマスツリー状に200個程の桃の花を咲かせました。これは面白いと、花粉症がひどいころは効きそうなハーブ類に凝ったり、出向して弁当持参が必要となるといろいろ野菜としてミニトマト・クレソンなどに挑戦しました。ベニズモモの灌木は上階のベランダに届く程になり、葉が風に揺れ、休日窓際にいると緑陰読書の趣があります。

今年はパッションフルーツを育てましたが、握りこぶしほどの実は、果肉の量こそお店のものには遠くかないませんが、その香りは天然のものでした。来年は何を育てようかと期待をふくらませておりますが、植物の成長とともに足元の鉢も大きくなり、ベランダ本来の機能である洗濯物干しに支障をきたしているのが現在の悩みです。

まる子の結まーる (皆様との交流の場です)

●9月1日(土)は、防災の日でしたが、当機構でも9月4日(火)に大規模地震発生に備えた避難訓練を実施しました。

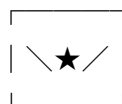
訓練では、地震発生による初期対応（テーブルや机の下に隠れる等）から、各職員に配給されている非常用袋を携行して避難場所への移動まで一連の訓練を行いました。

避難訓練の様子はこちら

→ http://www.jiwet.jp/mailmaga_yuimaru/staff-info/hinankunren2012.pdf

=====
皆さまからの情報提供をお待ちしておえます！

提供はこちらまで→



jiwet@jiwet.or.jp

※テキストは原則400字以内。写真等はA4版にして原則2ページ以内。

なお、お寄せいただいた情報はそのまま掲載することを基本としますが、掲載の可否は機構にて判断させていただきます。

↓コチラからは、国からの下水道ホットインフォメーションを掲載しています。



下水道ホットインフォメーション（2012.9.13付、国からの最新情報です）

送信元：国土交通省 水管理・国土保全局下水道部下水道事業課企画専門官 吉澤正宏



先週号で日本下水道施設業協会による新聞意見広告をご紹介しましたが、読者の方から、「読売KODOMO新聞」の9月6日号（毎週木曜発行）に、下水管内のTVカメラロボットを紹介する記事が見開き2ページで掲載されていたよとの情報をお寄せいただきました。小学生とその保護者をターゲットにしている新聞だそうで、お近くに購読されている方がいらっしゃればご覧いただければと思います。「下水道の日」の関係で様々なイベント、広報活動が行われています。今週のラインナップ「下水道場」設立会議もご覧下さい。インターネットの検索でも、本年度の取り組み内容がたくさんヒットします。これはという取り組み、全国に発信していきますので、お知らせください。

★★★★★ 今週のラインナップ ☆☆☆☆☆

○平成25年度国土交通省関係予算概算要求概要について【下水道事業課】

○先進的経営モデルプロジェクト「コストキャップ型下水道」調査の実施について

【下水道事業課・国土技術政策総合研究所下水道研究部】

○「下水道場(下水道若手情報ネットワーク)」の設立会議を実施しました

【下水道企画課】

●平成25年度予算概算要求について【日本下水道事業団】

●JS技術報告会の開催について【日本下水道事業団】

●第 24 回研究発表会の開催について【環境システム計測制御学会】

<再掲>

●第 17 回「下水道循環のみち研究会」セミナーを開催します

【日本下水道施設業協会】

=====

○平成 25 年度国土交通省関係予算概算要求概要について【下水道事業課】

平成 25 年度国土交通省関係予算概算要求概要が、9 月 7 日に公表されました。

社会資本整備総合交付金については、約 1.5 兆円（対前年度比 1.05）の要求を行い、このうち重点要求は、約 2,159 億円です。また、このほか東日本大震災からの復興対策に係る経費として全国防災について 2,041 億円を要求します。

下水道に係る新規要求事項等は、以下のとおりです。

・下水道総合地震対策事業の拡充

大規模地震が発生した場合における下水道管渠の被害を抑制し、都市機能の継続的な確保を図るため、都市再生緊急整備地域における下水道管渠の耐震化を交付対象に加えるなど下水道総合地震対策事業を拡充し、人口・都市機能等が集中した地区における下水道管渠の耐震化を重点的に推進する。

・下水汚泥バイオマスを活用した発電技術の実証（下水道革新的技術実証事業）

<特別重点要求>

エネルギー需給の逼迫や地球温暖化の進行等を踏まえ、下水汚泥バイオマスのもつエネルギーを電力に変換する技術として、下水汚泥バイオマスの燃焼による発電技術を、国が主体となって実証し、再生可能エネルギーの普及拡大を推進する。

・管渠マネジメントシステム技術の実証（下水道革新的技術実証事業）

老朽化が進む長大な下水道管渠を適切に管理するため、スクリーニング調査を核とした管渠マネジメントシステム技術をモデル処理区において構築・実証し、管渠のライフサイクルコストの低減と投資の最適化を図る。

・下水道分野における海外先導的プロジェクトの実施（行政経費）<重点要求>

>

世界的に技術的優位性を有する我が国の下水道技術の海外展開を促進するため、海外における先導的デモプロジェクトを実施し、相手国の本邦技術に対する理解の醸成、現地技術者の育成等を図る。

・汚水処理施設整備構想ガイドライン策定（行政経費）

「今後の汚水処理の在り方に関する検討会」中間とりまとめを受けて、汚水処理事業の経営やエネルギー利用促進等の観点を含めた適正かつ効率的な汚水処理施設整備の考え方について検討し、汚水処理施設整備構想のガイドラインとしてとりまとめる。

・次世代型流域マネジメント方策に関する検討（行政経費）

人口の減少、低炭素社会の実現等に伴う諸課題に対し、今後の流域管理に求められている観点を踏まえ、(1) 栄養塩類の循環バランスに配慮した運転管理手法、(2) 雨水利用の推進方策、(3) 水質事故時の措置等について下水道として必要な対応策の検討を行う。

○先進的経営モデルプロジェクト「コストキャップ型下水道」調査の実施について

【下水道事業課・国土技術政策総合研究所下水道研究部】

下水道整備水準には地域間格差が顕著で、特に普及の遅れている中小市町村では、人口減少、高齢化の進展や厳しい財政事情等、下水道整備を進めるにあたって、困難な状況に置かれています。そこで、国土交通省では、従来の下水道計画検討プロセスとは異なった新しいアプローチとして、厳しい地方財政を前提とした投資可能額を設定し、新しい手段の活用を検討したうえで、どのような下水道運営（施設建設及び維持管理等）をめざすことができるかを検討することを目的として、先進的経営モデルプロジェクト「コストキャップ型下水道」調査を開始します。

今年度は、愛知県知多郡美浜町をケーススタディとして、「コストキャップ型下水道」の適用可能性調査を実施します。そのために、美浜町と国土技術政策総合研究所の間で、「低コスト型下水道整備等手法の適用可能性検討に関する共同研究」の協定を締結（8月29日）致しましたので、併せてお知らせします。
。 http://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizukokudo13_hh_000172.html

○「下水道場(下水道若手情報ネットワーク)」の設立会議を実施しました

【下水道企画課】

9月10日に「下水道場(下水道若手情報ネットワーク)」の設立会議を開催しました。「下水道場」は、官公庁等で下水道関係の職業に携わる若手職員の自己研鑽・切磋琢磨のため、普段の業務ではつながることが難しい、全国の職員が広く集まり、情報交換する機会を提供する事を目的としております。（事務局：下水道企画課）

設立会議では、40才未満の職員、49団体71名が集まり、9班に分かれた班別討議を行いました。活動内容等の議論を行い、今後の方針を示した「神田宣言」をとりまとめ、盛会のうちに修了しました。当日出た意見としては、「本市の世界的視点で見たときのレベルが知りたい。いくつかの大都市が国際視点で仕事しているが、本市としては国際には興味なく、標準化等にも乗り遅れるのではない心配。」「まずは「顔を合わせる」機会を定期的に設けることが必要」等がありました。また、「職種の異なる方々のいろいろな意見を伺えて、下水道の仕事の幅広さを感じ、有意義な時間が過ごせました。」等の肯定的な感想を多数頂いております。

なお、近日中に神田宣言を公表させて頂きたいと考えております。

●平成25年度予算概算要求について【日本下水道事業団】

9月7日に日本下水道事業団の平成25年度予算概算要求について、記者発表いたしました。

したので、お知らせいたします。

詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

<http://www.jswa.go.jp/kisya/h24pdf/240907kisya.pdf>

●J S技術報告会の開催について【日本下水道事業団】

日本下水道事業団（JS）は今年も、これまで取り組んできた調査研究・業務の内容を地方公共団体をはじめ下水道関係者に幅広くご紹介する「外部向け情報発信の場」として、東京（10月）、大阪（11月）で技術報告会を開催いたします。

詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

<http://www.jswa.go.jp/kisya/h24pdf/240911kisya.pdf>

●第24回研究発表会の開催について【環境システム計測制御学会】

環境システム計測制御学会は、10月25日(木)、26日(金)に横浜市開港記念会館で第24回研究発表会を開催します。25日は「大震災に備える水インフラの整備」をテーマとし、早稲田大学濱田政則教授の基調講演とパネルディスカッションを行い、大震災の対策面から見た今後の水インフラ整備、災害対応技術・研究への提言を行うことを目指します。2日目は、特別セッション「東日本大震災後の水インフラの復旧成果と復興方針」と題してポスター発表を行い、続いて上水、下水、廃棄物分野から維持管理、エネルギーまで環境システムの幅広い分野における計測、制御、管理に関する研究発表を行います。参加申込みは、ホームページ（下記）「研究発表会参加募集」から

2nd.ann.に進み、「参加申込みフォーム」をダウンロードしてお申込み下さい。

<http://eica.jp>

連絡・問合せ先：

環境システム計測制御学会 事務局 間處・西尾

TEL:090-9219-4106 FAX:077-537-4997

E-mail:info@eica.jp

<再掲>先週号でご案内していますが、募集中ですので再掲します。

●第17回「下水道循環のみち研究会」セミナーを開催します

【日本下水道施設業協会】

第17回セミナーには、京都大学から田中宏明教授を講師にお招きし、今後下水道整備の必要性が高まる東アジア地域における国際展開についてお話を伺います。田中先生は、GCUSの顧問として海外プロジェクトの形成や、京都大学・精華大学共同研究センターの運営の中心として下水道の海外展開に係わってこられました。発展する東アジアの水事情について最新の状況をお聞きし、下水道循環のみちを推進するための意見交換の場としたいと思います。

・テーマ：「大学からみた東アジアにおける下水道国際展開の展望」

・講師： 京都大学 流域圏総合環境質研究センター 教授 田中宏明 様

・日時： 平成24年10月5日 金曜日 15:30～18:00

・場所：日本下水道施設業協会 大会議室

東京都中央区新川2-6-16 馬事畜産会館2階

・申し込み方法

施設協ホームページ（下記）から申込用紙をダウンロードし、所定の事項を記入の上、FAXにて10月1日（月）までに。

<http://www.siset.or.jp/>

・問い合わせ：日本下水道施設業協会 河野（03-3552-0991）

なお、第16回研究会までの講演概要を施設協ホームページに掲載してあります。

=====

【参考情報】

◆下水の高度処理、供用開始 射水、通水式でコイ放流 <9/9 北國新聞>

<http://www.hokkoku.co.jp/subpage/T20120909205.htm>

◆下水汚泥から水素製造 燃料電池車普及へ4社が実証実験 <9/10 朝日新聞>

<http://www.asahi.com/car/news/NGY201209100001.html>

◆大船渡湾の水質改善 海水流量、震災前の3倍に <9/11 岩手日報>

http://www.iwate-np.co.jp/cgi-bin/topnews.cgi?20120911_9

◆琵琶湖保全法／国・下流の関与盛る <9/11 朝日新聞>

http://mytown.asahi.com/shiga/news.php?k_id=26000001209110003

◆「想定外」局地氾濫 岩見沢豪雨 浸水被害77戸、避難勧告は解除 <9/13 北海道新聞>

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/donai/403684.html>

◆水質浄化にも一役 アサザ見頃 福島 <9/13 読売新聞>

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/fukushima/news/20120912-OYT8T01121.htm>

◆指定廃棄物 処分場の分散 県が断念 群馬 <9/13 読売新聞>

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/gunma/news/20120912-OYT8T01528.htm>

～ 以上、国からの下水道ホットインフォメーションより～



発行元：財団法人 下水道新技術推進機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル 7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えたい情報をお持ちの方はこちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせはこちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

○ニューズレターはこちらから → <http://www.jiwet.jp/newsletter/20120229/>

○コラムの正解はこちらから

→ <http://www.jiwet.jp/newsletter/20120229/seikai2.pdf>

